



野村 博雄議員

Q 副市長の給料等を5%減額する理由や削減額は

A 副市長候補者が行財政改革への姿勢を示すもので削減額は3百万円強



その他の質問

- ・会計年度任用職員の待遇について
- ・児童生徒の学びやSNS等との関わりについて
- ・職員間のハラスメント対応について

Q 副市長の給料等を5%減額する理由は。

A 副市長候補者自らが行財政改革への強い姿勢を示すという趣旨で判断し、副市長給与が市長を上回る逆転現象を避けることや職責に対する適正な水準等を考慮し削減幅を5%とした。

Q 減額しない場合の、任期4年間の支給額は。

A 給料は36,960,000円、期末手当は12,566,400円、退職手当は11,088,000円、合計で60,614,400円となる。

Q 5%減額した場合の、任期4年間の支給額と、削減額は。

A 給料は35,112,000円、期末手当は11,938,080円、退職手当は10,533,600円、合計で57,583,680円で、削減額は3,030,720円となる。



中川 睦子議員

Q 男女共同参画センター「ウィズ」を残すべきでは

A 厳しい財政状況で、施設を継続することは困難



その他の質問

- ・荒神山自然の家の閉鎖について
- ・指定管理者制度について
- ・賃金スライド制度導入について

Q 「ウィズ」の果たしてきた役割は。

A 各種講座や研修会、相談事業を通じ、男女共同参画社会の実現、啓発に取り組み、地域や市民活動の拠点として重要な役割を果たしてきた。

Q 市民の声で継続の意見が多ければ残せるか。

A 来年度以降の施設運営の経費捻出は難しく、残すことは困難。施設の維持管理に要した経費の一部を事業経費に充て、男女共同参画事業を拡充し実施する。

Q 閉鎖後の施設はどのように管理していくのか。

A 建物や敷地の草刈りなど維持管理は企画課女性活躍推進室の職員で対応予定。

Q 「ウィズ」を残すべきでは。

A 現施設を継続するのは困難だが、活動している各団体には代替施設を案内し、活動継続の支援を行う。



▲男女共同参画センター「ウィズ」



馬場 和子議員



市長と副市長の職務分掌が必要と考えるが見解は



状況や課題に応じて役割を柔軟に分担する

Q 議案第77号の彦根市副市長の選任につき同意を求めることについて、多岐多様な彦根市の施策の末端まで目を届かせ、血の通う市政推進のためにも、市長・副市長間での職務分掌が必要と考えるが見解は。

A 副市長には市政全般を見渡し市長を補佐しながら、施策の総合調整を担ってもらう。そのうえで状況や課題に応じて役割を柔軟に分担し施策を着実に推進したい。職員が安心して働ける環境づくりの体制整備や条例化も含めた検討課題に滋賀県のコンプライアンス推進監としての経験を生かし先頭に立って取り組んでいただきたい。職員が刑事告訴などの事態に対応できるよう職員を守るための条例制定の検討を進めるよう副市長に指示していく。



その他の質問

- ・市長公約である「対話」をどう進め、市政へと反映するのか
- ・彦根城の世界遺産登録の国内推薦見送りと今後の方向性は



▲市役所4階の人事に関する窓口



角井 英明議員



彦根ニュータウンの街路樹が枯れている原因は



病害虫の被害で葉が変色し衰弱している

Q モミジバフウが枯れていた原因は。

A 本来、熱帯・亜熱帯地域に分布している病害虫が、今年の高温と降雨の少ない状況で発生したと考えられる。

Q 去年はなく、今年の異常な高温で、熱帯・亜熱帯地域に生息する害虫により枯れたということか。

A 葉が枯れるというよりは落葉した状況で、他所でも同じことがあり、全体的な気候変動によるものと判断している。

Q 春に強せん定がされ、街路樹の勢いがなくなり、害虫が付き枯れたと考えられるのか。

A 害虫がいつ、どのようについたかの判断は難しい。葉の裏側についた状況が見受けられ、葉が育った後についたと推測される。

Q 地球沸騰化は今後も進む。どういう対策を考えているか。

A 害虫はモミジバフウについていて、害虫を駆除する薬剤散布を考えている。



その他の質問

- ・稲枝地域での学校規模・学校配置計画について
- ・地球沸騰化が及ぼす農業への影響について



▲害虫によって落葉したモミジバフウ



小川 隆史議員

Q フリースクールにおける子どもの居場所以外の事業の活用は

A 積極的に連携を図っていく



その他の質問

- ・ 聖泉大学における新学部開設について

Q フリースクールてだのふあでは、子どもの居場所以外の事業を実施しているが、市は把握しているか。

A 学習支援、体験活動、保護者に対する相談支援や子どもの家庭を幅広く支える、独自の活動に取り組んでおられ、福祉的アプローチとして積極的な取組をされていると認識している。

Q 不登校問題解決に向けて、教育的アプローチに加え、福祉的アプローチの必要性和実施に向けての考えは。

A てだのふあの取組も、福祉的アプローチの要素がたくさんあり、効果的に取り組まれていると認識しており、児童福祉の視点で市が支援している世帯と共通する世帯が増えれば、積極的に連携を図っていききたい。



▲NPO法人フリースクールてだのふあ



森田 充議員

Q 「職員を守る条例」について市長から副市長候補者に話をしたのか

A 副市長候補者にも概要は伝えている



その他の質問

- ・ 令和7年人事院勧告を準用するのか
- ・ 持続可能な交通ネットワーク構築の目指すべき姿と抱える課題は

Q 市長から副市長候補者にはどのような話をされたのか。

A 副市長候補者にも概要を伝え、選任された際には、認識を共有しながら職員が安心して職務を遂行できる環境づくりを進めていくとともに、条例制定を視野に入れたより望ましい制度のあり方について、副市長を中心に検討を進めてほしいと私（市長）から伝えた。

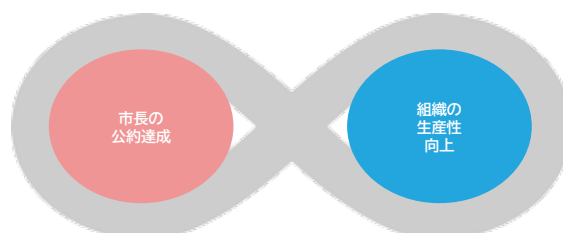
Q その時の副市長候補者の反応は。

A 前向きに話を聞かせていただきますとの返事もらった。

Q 副市長候補者には「職員を守る条例」制定に向けて指示されるのか。

A 規則で十分という考えを改めて、副市長候補者には条例制定に向けての検討を図るよう指示したいと考えている。

副市長の役割は両輪



トップダウンでの「市長の公約達成」と
ボトムアップでの「組織のパフォーマンス向上」を
両輪で回すのが副市長の仕事と考えられる